

都立新国際高校（仮称）開校に向けた専門家会議（第4回）

次 第

日時 令和5年12月22日（金）
午後3時から午後5時まで

1 開会

2 議事

(1) 第1～3回会議のポイントについて

(2) こども都庁モニター 令和5年度第2回アンケート結果について

(3) 議論のとりまとめ（案）について

配 布 資 料

(資料1) 委員名簿、事務局名簿

(資料2) 第1～3回会議のポイントについて

(資料3) 「こども都庁モニター 令和5年度第2回アンケート結果」の概要について

(資料4) 議論のとりまとめ案の概要について

【参考資料】

- 1 「新国際高校（仮称）設置に係る検討委員会報告書」（平成29年3月）
- 2 「都立新国際高校（仮称）基本計画検討委員会報告書」（平成31年3月）
- 3 第3回都立新国際高校（仮称）開校に向けた専門家会議 議事要旨
- 4 「都立新国際高校（仮称）開校に向けた専門家会議 議論のとりまとめ（案）」

参 考 資 料

なお、国の答申等各種資料に関するリンク先は、以下のとおり

< 令和3年1月中央教育審議会答申 >

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/079/sonota/1412985_00002.htm

< 高等学校教育の在り方ワーキンググループ >

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/091/toushin/mext_00021.html

< 未来を創造する若者の留学促進イニシアティブ第二次提言 >

<https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kyouikumirai/teigen.html>

< 教育振興基本計画 >

https://www.mext.go.jp/a_menu/keikaku/index.htm

< 東京都教育施策大綱 >

https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/administration/action_and_budget/action/action.html

< 『未来の東京』戦略 >

<https://www.seisakukikaku.metro.tokyo.lg.jp/basic-plan/choki-plan>

< 東京都グローバル人材育成指針 >

<https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/content/global.html>

< こども都庁モニター 令和5年度第2回アンケート結果（11月1日・全体版） >

<https://kodomo-monitor.metro.tokyo.lg.jp/questionnaire-result-elementary/>

【資料1】都立新国際高校（仮称）開校に向けた専門家会議

< 委員名簿 >

	職 名	氏 名	備考
学識経験者	東京学芸大学附属国際中等教育学校長	荻 野 勉	
	上智大学言語教育研究センター教授 センター長	藤 田 保	
	明海大学教職課程センター・地域学校教育センター教授	米 村 珠 子	
港区教育委員会 関係者	港区教育委員会事務局学校教育部教育指導担当課長	篠 崎 玲 子	
学校関係者	東京都立国際高等学校長	齋 藤 直 子	
	東京都立立川国際中等教育学校・附属小学校長	市 村 裕 子	

事務局	教育庁高校改革推進担当部長	猪 倉 雅 生	
	教育庁教育改革推進担当部長	根 本 浩太郎	
	都立学校教育部都立高校改革企画調整担当課長	岐 下 英 男	
	都立学校教育部都立高校改革推進担当課長	稲 村 理在子	
	都立学校教育部教育改革推進担当課長	横 田 雅 博	
	都立学校教育部施設調整担当課長	見 目 充 幸	
	指導部高等学校教育指導課長	信 岡 新 吾	
	指導部高校教育改革担当課長	小 林 靖	
	グローバル人材育成部国際教育企画課長	軽 部 智 之	
	人事部人事計画課長	奥 富 洋 一	
	都立学校教育部高等学校教育課課長代理（教育改革推進担当）	高 橋 顕 子	
	都立学校教育部高等学校教育課指導主事	松 井 健 彦	

【資料2】 第1回会議のポイントについて（再掲）

- IB教育の良いところを日本の教育と結合させながら、新しい教育を作っていく。主体的・対話的な深い学びに導いていくことが可能。IB教育で大切にされている「**学問的誠実性（Academic Integrity）**」を身に付けることが大切。
- 大学進学以外の進路を目指す生徒達が育ってもよく、**幅を与える機会**が高校時代に提供できると素晴らしい。
- 教科横断的・文理融合的な学び**に向けたカリキュラム、情報やAI、データサイエンスや自然科学などの学びの視点も必要。
- 在学中に国内外の大学の研究機関や大使館、インターナショナルスクール等、英語圏以外の国や地域も含めて、**海外との繋がり**をつくることが大事。
- オンラインとリアル双方の交流機会**を取り入れ、国内外の**豊かな体験活動**が大事。国際交流をイベントで終わらせず、学習とどう統合していくか。生徒が探究で学んだことをフィールドワークとして企画・実践させる独自の取組も大事。
- 港区の中学校と交流**する素地、連携を模索してほしい。
- 海外大進学には、学校を超えた情報・ノウハウを共有する仕組みの構築が効果的。外部専門人材の活用等により**国際交流や海外進学**の拠点とすることも検討。
- 新国際高校（仮称）と国際高校、両校とも発展するような形を考えたい。

【資料2】 第2回会議のポイントについて①（再掲）

（ICTの活用等について）

- 教育データを活用し達成度を分析することで生徒への支援内容を可視化。ICTやAIは海外とのコミュニケーションの道具としても役割を発揮。
- 実社会での問題発見・解決に役立つ教科等横断的な探究活動を通して、論理的思考力等が向上。探究と創造の往還による教育手法を使い、各教科での調査・探究の実践と総合的な探究の時間等での創造活動をリンクさせながら学びの質を向上。
- STEAM*教育については、各教科の知識等の強化といった段階から、社会の課題を解決するための教育へと進化。実践には教育課程と教員の組織体制の整備が重要。
（*S=Science, T=Technology, E=Engineering, A=Art, M=Mathematics）

（国際交流等について）

- 現地研修は海外で学ぶ体験を楽しむ方向に変化。オンラインを活用した事前事後の学習を充実させ、現地研修をコアとした長期プログラムとすることが大事。
- 興味関心のある領域を英語で学ぶことが英語学習への強い動機付けに。交流先や内容も幅広く考え、現地行政や専門家等と連携しプログラム開発の充実が必要。
- 学校を外部の資源も活用しながら、社会と結びつく開かれた場にすることも必要。
- 生徒が外に出てプログラムの中身を自ら考える。教員はファシリテートで支える。そういう形で融合できたら、有意義なプログラムができる。

（入学時の姿について）

- 入学時に一定の英語力を求めるとしても、エリート的な英語力の高さではなく、**積極性や意欲を評価**することが大事。突破力のある生徒は海外でも活躍する。
- STEAM教育に力を入れていくためには、科学的な思考ができるかという**論理性**を、入学の要素として入れていくことも検討の一つ。

（学ぶ環境について）

- 多様な生徒がいる環境下で揉まれて伸びる生徒は多い。それをサポートし、一人一人が**自尊心を高めあえる環境づくり**がグローバル人材の育成には必要。
- 海外に出て経験する**マイノリティ感**を高校生のうちに体験することも大事。
- 海外での経験が生かせていない生徒がいる。自分のもっているものの良さを認め、生徒たちが**お互いに認め合いながら発展**していく教育も必要。
- STEAMなど教育内容の**充実**が必要。文系理系を問わず、**海外に出て行こうというメッセージの発信**が大事。
- STEAMのA*も大事にしながら、文系的テーマでも**科学的な手法で分析し、知見を得ることのできる人材**が求められている。外部人材等をさらに活用し、**Z世代の感性に応える学校づくり**が必要。（*Art(s)=芸術、リベラルアーツ（文化、生活、経済、法律、政治、論理等））

（大使館との連携について）

○米国大使館は、英語教育の促進を目的としてアウトリーチしていく取組を実施。教員研修、オンライン講座や教材の提供、英語教育の専門家の派遣など、ITも活用しながら様々なプログラムを実施。

○Education USAは世界中にネットワークをもち、生徒が自分の力で留学するために必要な情報を提供。留学のベネフィットは、日本を外から見て、国際人としての自覚をもてること、多様な文化の中でより広い視野を身に付け、キャリアに大きな視点をもてること。早い時期から留学準備をするのが大事。学業やコミュニケーション能力を高めておくこと、自分の中で誇れるものを作っておく。

（世界で活躍する人材の育成について）

○グローバル人材に必要なスキルは情報を得る力ではなく、情報の中にある本質を見抜く力。加えて、考えを形にしていく自信やスマートさが必要。表現する力なども学んでほしい。グローバル・マインドだけでなくローカル・プライドも身に付ける。

○経済成長への貢献を考えると、起業家の育成は重要。生徒に政策提案をさせ、それが自信となり、成長に繋がる。横並びにならなくてよい。

○グローバルとは、どこの国に行っても通用する人間を育てること。イニシアティブをとり、クリエイティブに考える生徒を育てるプログラムが必要。学校が社会と繋がりを、社会課題に対してコントリビューションできるようにする。

（議論のとりまとめの方向性について）

○国際高校と新国際高校を両立させ、互いに発展させる。基本的な方針は重なり合っていてよい。プログラムなど方法論で差別化。国際高校はIBをコアとして進めていく。新国際高校では生徒の提案を入れながらプログラムを実現させるなど、余白を大きくして柔軟性をもたせることが大きな特色になっていく。

○アクト・ローカリーが大事。地域の課題解決を考える活動を通して、生徒が社会を変えられたと自信をつける。グローバル社会で活躍する時に、見えないところにあるローカル・プライドが重要。高校生が地域の学校と連携した活動をしてよい。

○生徒の発想を実体化する際、気を付けなければならない情報モラルやリーガルプロセス等を学校が支援するなど、生徒を導くのが大人の役割。教育委員会に期待することは、こうした生徒の活動を支援できる体制等を作ること。

○人と人の繋がりを築き上げるため、ツールとして外国語を学ぶ意識を取り入れる。海外ボランティア活動に参加し、人生観が変わる経験をした生徒もいる。欧米に目を向けていた生徒が、活動参加後にアジアに行くなど選択肢が広がった例もある。生徒を変容させる仕組みや、世界観を拡大していく出会いの機会をつくる。

○教員のスキルアップも必要。大使館のアウトリーチプログラムの中で、英語の教育法だけでなく、他教科やSTEAM教育の教え方に関する教員研修などで協力を進めていけるとよい。新国際高校だけではなく、都立高校全体の話になる。

【資料3】「こども都庁モニター 令和5年度第2回アンケート結果」の概要について

アンケートテーマ「多様な海外の子供たちとの交流」について（中学生・高校生モニター各200人）
（期間：令和5年7～8月、方法：インターネットを通じてアンケート専用ホームページから回答）

- ・海外の子供たちと交流したいと思う生徒は、中学生・高校生ともに**8割を超える**。
 - ・国際交流に必要だと思うことは、「**自分の考えや想いを伝えあう力**」が中学生・高校生ともに最も多い。次いで、「**英語力**」や、「**自分の住む国についてよく知り、分かっている**」こと、「**世界で起こっていることについてよく知り、分かっている**」こと、などの意見となっている。
 - ・海外の子供たちと話したいテーマ・内容は、「**自分の国・相手の国でいま人気があるもの・こと**」（音楽や美術等）が中学生・高校生ともに最も多く、次いで「**伝統文化**」、「**スポーツ**」となっている。
 - ・海外の子供たちとの交流手段については、「**学校の行事等で海外を訪問**」が中学生・高校生ともに約6割と最も多く、次いで、「**日本に来た海外の子供たちとの対面での直接交流**」が多い。そのほか、中学生については、「**オンライン（タブレット端末等）を活用した海外の学校との交流**」が多いが、**高校生については、「留学（自分一人で海外に行つて交流）」（長期間・1年間程度）**が約4割と多くなっている。
- （主な自由意見）
- ・グローバル化が世界で加速する現在、日本や東京の子どもたちと**海外の子どもたちとの交流を盛んにすること**はとても重要だと思うので、ぜひ**オンライン上での交流も含めて体験**してみたい。（男性 中学生 世田谷区）
 - ・もっと海外の子供達との交流がたくさんあって欲しい。**学校で学んだ英語を実践**できるし、日本だけでなく**多様な国の文化を知ることが**できるので、**積極的に交流**していきたい。（女性 高校生 町田市）

第1章 これまでの検討経過と社会情勢の変化

○社会情勢の変化～グローバル化やデジタルトランスフォーメーション（DX）の進展

- ・ グローバルな視点をもつ人材の育成への期待
（課題解決力、協働する力、思考力や発想力、革新性や創造性等）

○国の動き

- ・ 中教審答申を踏まえた法令等改正教・育振興基本計画
- ・ 未来を創造する若者の留学促進イニシアティブ 第二次提言

○都の動き

- ・ 東京都教育施策大綱の策定
（子供の意欲を引き出す、成長を社会全体で支え主体的に学び続ける力を育む、ICTの活用により力を最大限に伸ばす）
- ・ 東京グローバル人材育成指針」策定～4つのTARGET
（主体的に学び続ける態度と英語力を基盤としながら、各TARGETを連携させた教育を推進）

【4つのTARGETのイメージ図】



第2章 基本的な方向性

○設置理念

国際社会において、地球規模の問題解決に取り組み、他者と協調しながら、より良い未来を構築するグローバル人材を育成する。

○育成を目指す生徒像

- ・ 豊かな教養と論理的思考力、総合的な語学力を基礎として、グローバル化する社会の中で、主体的に学び続けながら行動し、自分の将来を切り拓く生徒
- ・ 社会の持続的な発展に向け、多様な価値観を受容しながら協働して社会の課題解決に取り組み、新たな価値を創出することができる生徒
- ・ 自立した人間として前に踏み出す強い意志、高いコミュニケーション能力、柔軟性や創造力を有し、世界をけん引していくことができる生徒

○教育活動の基本的方針

<幅広く豊かな教養を身に付け、思考の基盤を形成>

- ・ 理系文系にとらわれないリベラル・アーツ教育、教科横断的・文理融合的な学び
- ・ 総合的な語学力を強化、異なる文化・価値観を乗り越えて関係を構築する力の育成

<論理的思考力等を高め、新たな価値を創出する力を育成>

- ・ 論理的思考力や協働する力、本質を見抜く力等の育成、探究的な学びやSTEAM教育を実施
- ・ 実行力や表現力等を高め、新たな価値を創出する力の育成に向けた教育活動を展開
- ・ 国内外の大学や高校、研究機関、企業、大使館、インターナショナルスクール等と連携
- ・ デジタルを最大限に活用し、授業改善や学習意欲の向上等に繋がる教育プログラムを開発

<自ら積極的に行動し、生涯にわたって成長し続ける意欲を醸成>

- ・ 国内外での社会貢献活動や社会実務体験研修等に全ての生徒が参加
- ・ 世界で活躍するトップリーダーや起業家等から学ぶ講座を設置

○教育課程等における学校の特色ある主な取組

- ・ **リベラル・アーツ教育の充実**
(例：論理的・批判的思考力を高める授業、情報科学や統計分析学、環境政策等)
- ・ **総合的な語学力の強化と多文化理解教育の充実**
(外国人指導者による授業等により、英語を道具として使いながら、コミュニケーション力を向上)
(多文化への理解促進等を目指し、第二外国語の授業を設置し、全ての生徒が履修)
- ・ **探究学習やSTEAM教育の充実**
(海外学習旅行など実体験とオンライン通信を組み合わせた活動を開発し協働研究を実施)
- ・ **社会参加・社会貢献等体験活動や起業家教育の充実**
(国内外での社会貢献活動、社会実務体験研修等に全ての生徒が参加)
- ・ **海外大学等への進学支援の充実**
(海外大学進学のための講座を開設、外部専門機関等との連携や専門職員の配置、卒業生の活用等)
- ・ **海外帰国生徒・在京外国人生徒の受入れ及び支援の充実**
- ・ **連携交流等の機会の創出**
(海外からの留学生の受入れ、インターナショナルスクールや地域の中学校と連携し交流)

第3章 教育活動の実現のために必要な教育環境の整備

- ・ 教員の採用・配置・育成等
- ・ 外部人材の活用等
- ・ 国際色豊かな学校等との連携

第4章 世界に羽ばたくグローバル人材の育成に向けて

本校の開設に向けた検討を契機として、グローバル人材育成に向けた都立高校全体の取組を強化。
具体的には、国際高校の教育内容の充実のほか、学校間の連携を進め、本校をグローバル人材の育成に向けた拠点の一つとして位置付け、その成果を各校に普及。